

「介護福祉士としてのやりがいや誇りについて（実態調査）」の報告

運営サポーターアンケート運営部会
部会長 中野 朋和

方法

調査対象：488名（2023年9月12日時点の運営サポーター登録者数）

調査方法：Google フォーム

調査期間：2023年8月29日～9月12日

有効回答：175件（有効回答率 35.9%）

主な結果

1. 基本属性

(1) 回答者の年齢と資格取得後の年数

回答者の年齢は、40歳代が最も多く76名（43.4%）、次いで50歳代が59名（33.7%）だった。介護福祉士資格を取得してから現在までの期間は、20年以上が最も多く79名（45.1%）、次いで10～15年未満、15～20年未満がそれぞれ30名（17.1%）だった。

表1 回答者の年齢と資格取得後の年数 n=175

	件数	(%)	件名	(%)
年齢			資格取得年数	
20～29歳	3	(1.7)	1年未満	2 (1.1)
30～39歳	17	(9.7)	1～5年未満	10 (5.7)
40～49歳	76	(43.4)	5～10年未満	24 (13.7)
50～59歳	59	(33.7)	10～15年未満	30 (17.1)
60～69歳	17	(9.7)	15～20年未満	30 (17.1)
70歳以上	3	(1.7)	20年以上	79 (45.1)

(2) 回答者の職種、勤務先

回答者の勤務先での職種は、「介護福祉職」が最も多く70名(40.0%)、次いで「管理者等」が36名(20.6%)だった。勤務先の運営主体は、「社会福祉法人」が最も多く66名(37.7%)であり、次いで「株式会社等」が44名(25.1%)だった。

表2 回答者の職種、勤務先 n=175

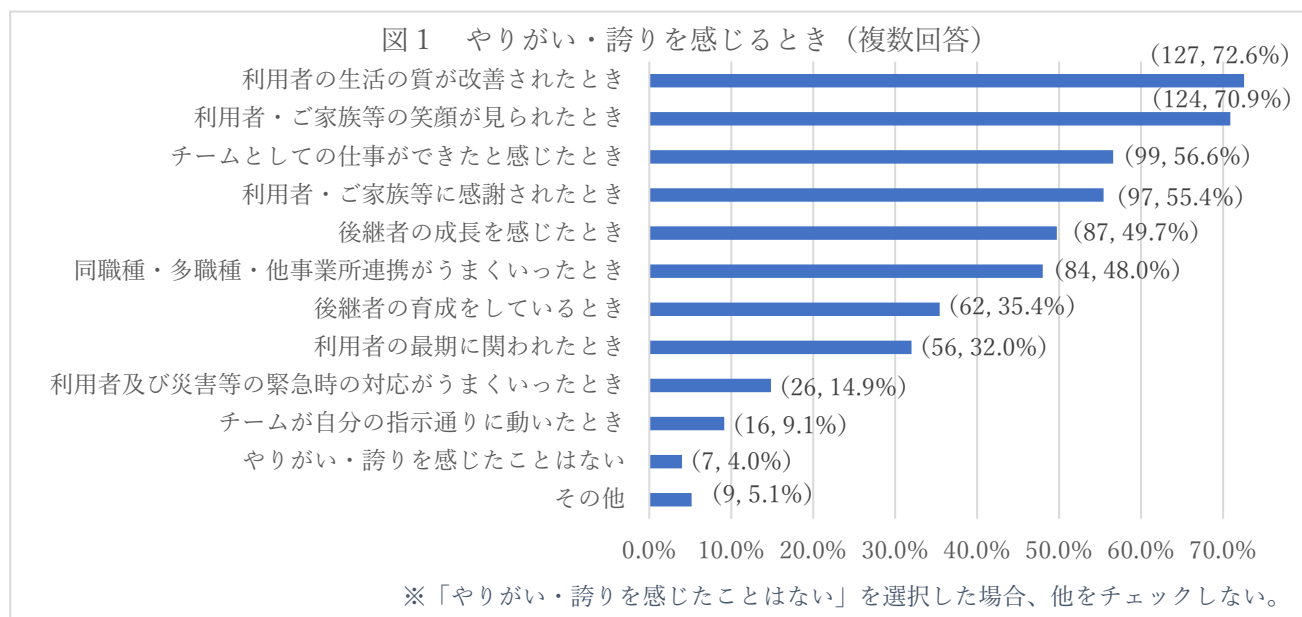
職種	件数 (%)		件名 (%)	
	件数	(%)	件名	(%)
介護福祉職	70	(40.0)	運営主体	
相談援助職	9	(5.1)	国、地方公共団体等の公的機関	10 (5.7)
介護支援専門員等	23	(13.1)	社会福祉法人	66 (37.7)
管理者等	36	(20.6)	(一般・公益)財団・社団法人、宗教法人、独立行政法人、学校法人等の非営利法人	22 (12.6)
事務職	11	(6.3)	医療法人等、病院・診療所を開設する法人及び個人	26 (14.9)
養成校教員	15	(8.6)	株式会社、有限会社(特例有限会社)、合同会社、合資会社、合名会社等の営利法人	44 (25.1)
その他	11	(6.3)	生活協同組合、農業協同組合、企業組合等の協同組合	2 (1.1)
			その他	5 (2.9)

注 「介護福祉職」：介護職員、訪問介護員、生活支援員等 ※直接介護を行う職種
「相談援助職」：生活相談員、支援相談員、相談支援従事者等
「介護支援専門員等」：介護支援専門員、計画作成担当者、サービス管理責任者
「管理者等」：管理者、管理責任者、所長、施設長等

2. やりがい・誇りについて

(1) やりがい・誇りを感じる時

「介護福祉士としての仕事に対し、やりがい・誇りを感じる時は、どんなときですか」と複数回答で質問したところ、最も多かったのは「利用者の生活の質が改善されたとき」127件(72.6%)であり、次いで「利用者・ご家族等の笑顔が見られたとき」124件(70.9%)だった。また、その他として、以下の回答があった。



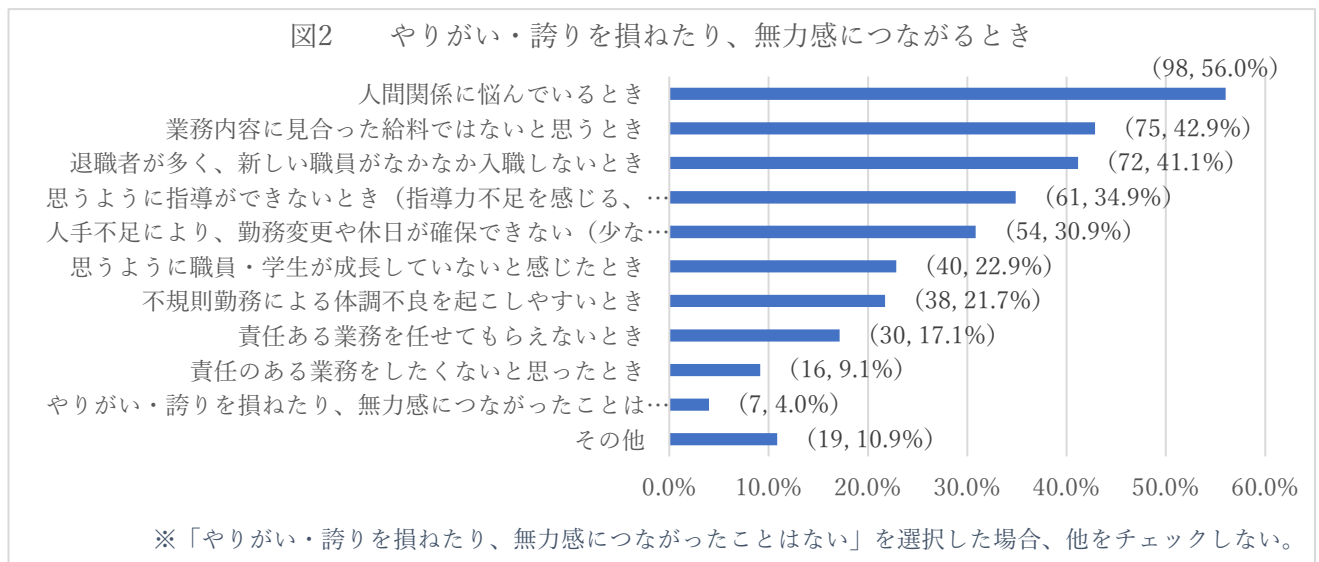
(その他の回答)

- ・福祉に携わる事が好きだと実感した時
- ・生活の視点から物事に関われているとき
- ・自分自身の介護に関する知識・技術が向上したと実感できたとき。
- ・地域へ貢献できた時
- ・格好良く仕事ができたと。利用者に安心感やメンタルの支えになれたと感じた時
- ・多職種から一目置かれる存在になったと思われる様になった時。

- ・介護福祉士合格連絡きたとき。要介護状態から要支援へと改善されたとき
- ・介護の仕事に誇りを持っている方に出会ったとき
- ・事務職のため特に介護福祉士としての仕事ではないがやりがいやほこりが何かはわかりにくい。全くないかと聞かれるとそれも違うきがするのでその他にしました。

(2) やりがい・誇りを損ねたり、無力感につながる時

「介護福祉士としての仕事に対し、やりがい・誇りを損ねたり、無力感につながるの、どんなときですか」と複数回答で質問したところ、最も多かったのは「人間関係に悩んでいるとき」98件(56.0%)であり、次いで「業務内容に見合った給料ではないと思うとき」75件(42.9%)だった。また、その他として、以下の回答があった。



(その他の回答)

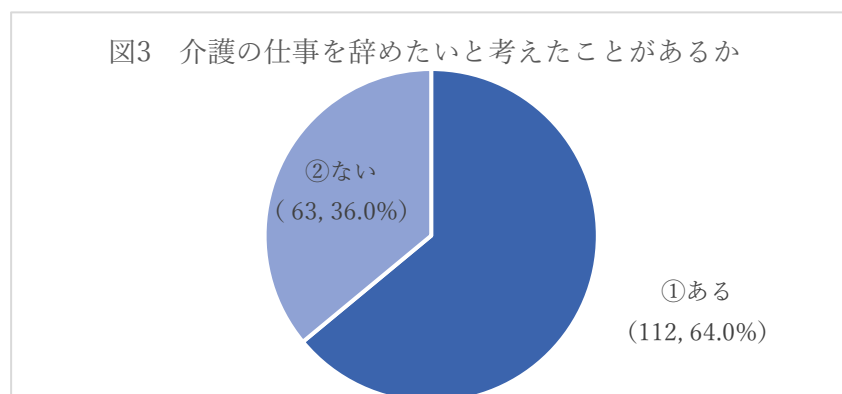
- ・利用者・職員に嘘をつかれたとき。特に利用者からの嘘は何のための福祉か?とってしまう。
- ・家族のハラスメント行為がひどい時
- ・職員不足のため、十分な支援ができないときには無力感あり。
- ・職場方針が変わり、やりたい介護に困難になってしまった。
- ・法人・施設の経営・方向性、上司の判断に柔軟さがなく、また、理解不能なことを言う・指示されたとき。研修参加などの学びやスキルアップを図っても給料に反映されない。
- ・組織内がうまく機能しないこと
- ・同じ介護福祉士資格を持つ先輩・上司の皆さんが介護福祉士会や自分自身を高める研修等に自ら参加せず、私も可能な限り勤める意識付けを行っているが、なかなか変わっていかない現状に度々無力感が出る。

- ・周囲の人の意識が低いと感じた時
- ・尊厳を損ねるような介護職員と一緒に仕事をしなければならない時
- ・誇りを持ってない介護福祉士に出会ったとき
- ・不適切ケアを当たり前のように指導している現状を受講生より知った時
- ・上司のやる気がみられない、否定ばかりするとき
- ・能力やできていることを評価されず、出来てないところばかり指摘されるとき。
- ・自分への他者の評価が正当ではないと感じたとき。
- ・自分の業務が、上司から軽視されていると感じた時
- ・社会(親戚や周りの人)から、介護の仕事をしていると言ったときのほのかに感じる劣等感。ケアマネジャーだといふとなぜか福祉系の相談をされたりすること。
- ・必要なセーフティーネットが無い又は不足し活用できない
- ・あまりにも一般常識や理解力の低い人職員の応募しかない時。「介護でも」やってみようかと就職してくる方が多い時。自分たちの仕事が理解されない時。介護報酬改定時、報酬が上がらず自分たちの仕事の理解がされていないと感じる時。介護福祉士養成校の卒業生の一般常識や理解度が低い時。またそれにもかかわらず自分たちの主張（給与、福利厚生等）ばかりしてくる時。等
- ・教え損だと思ふとき。新人教育は大変です。現場の職員には新人の目の高さで、自分が初めて介護職員になったときを思い出して人材育成に携わるように伝えています。業務のやり方はもちろんですが、その業務がなぜ必要なのか、根拠は必ず伝えています。やればいいだけの仕事の仕方ではなく、その業務のあり方を指導するようにしています。正直、時間も労力もかかりますが根拠なくしていい仕事はできないこと、理由を知ってるのと知らないのとでは全く違うことを人材育成している職員は理解して指導しています。が、新人はすぐに退職します。理想と現実にギャップがありすぎた。こんなに大変と知らなかったという理由が多い。ギャップってなんだ？と感じる。みんなで人材育成していくなかで、そのギャップとやりに振り回される。教え損か、またか、とがっかりする職員を見たときとてつもなく切なくなる。

3. 介護の仕事からの離職意向について

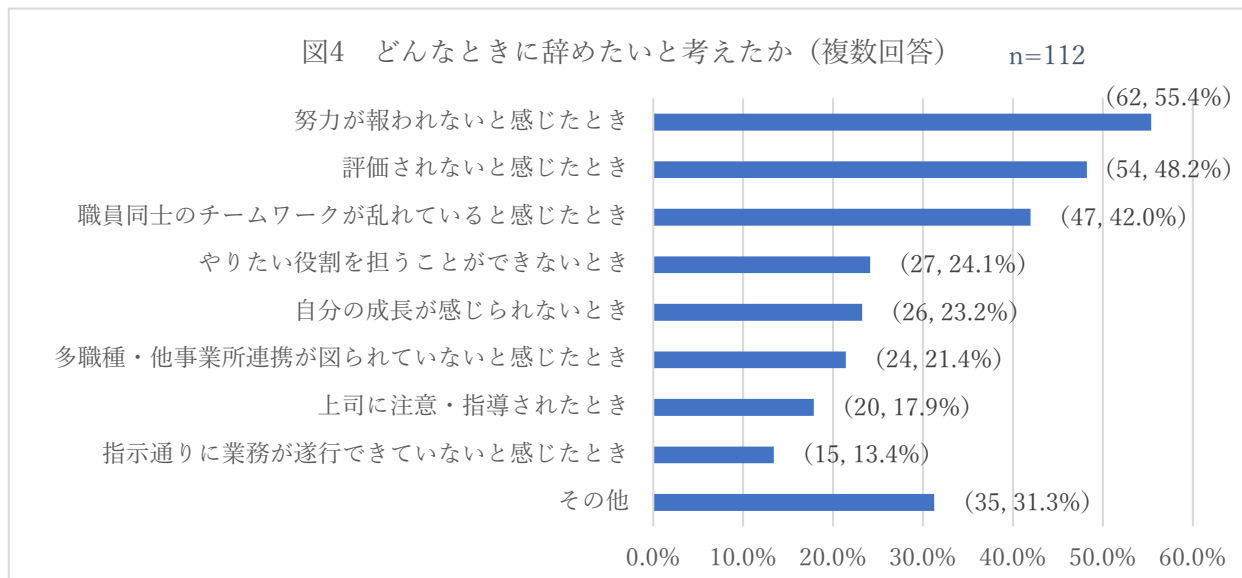
(1) 介護の仕事を辞めたいと考えたことがあるか

「介護の仕事を辞めたいと考えたことがありますか」と質問したところ、「ある」112件(64.0%)、「ない」63件(36.0%)だった。



(2) 介護の仕事を辞めたいと考えたのはどのようなときか

介護の仕事を辞めたいと考えたことが「ある」と回答した方を対象に、「どんなときに辞めたいと考えましたか」と複数回答で質問したところ、最も多かったのは「努力が報われないと感じたとき」62件（55.4%）であり、次いで「評価されないと感じたとき」54件（48.2%）だった。また、その他として、以下の回答があった。類似したものはまとめた。



（その他の回答）

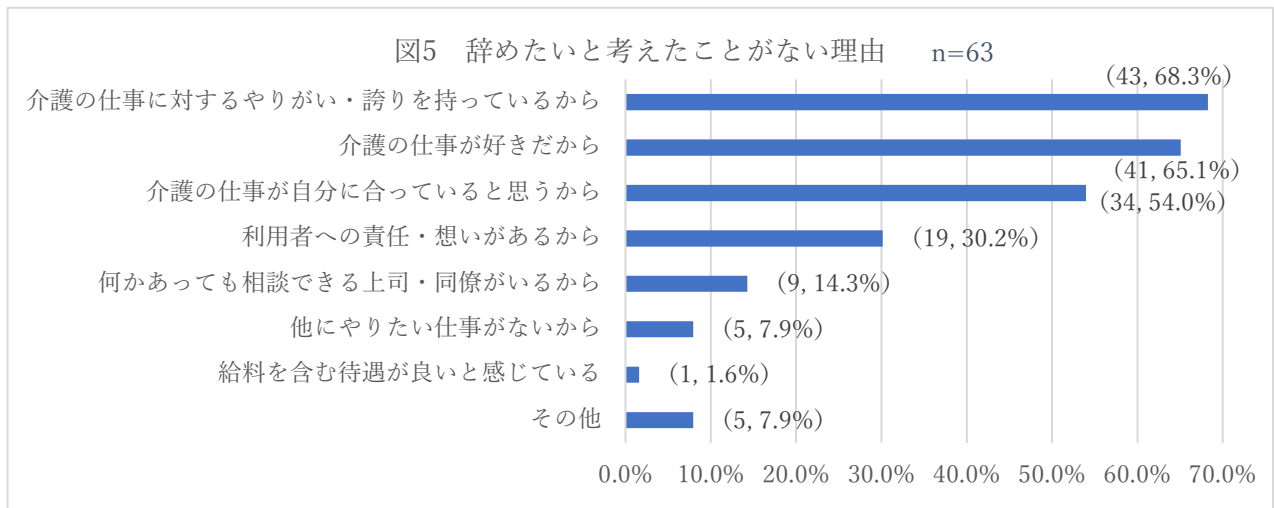
- ・急に、何もなく辞めたいと感じる。
- ・自分が本当に楽しいと思えるか、やって良かったと思えるか、思っているか。わからなくなったとき。
- ・利用者さんから認知症等の疾患以外を理由として、言葉や身体への暴力を受けたとき（「大人しそうにみえた」「なにを言っても/やってもいいと思った」等）
- ・自分の無力感を感じた時
- ・利用者様に対して続けて大きな失敗をしてしまった時で、大きく自己反省した時の一度のみ有り。
- ・自分のミスで、利用者の命にかかわる出来事があった。自分がそのまま専門職として勤務しても良いのかと悩んだ時にやめた方が良かったと感じた。
- ・サービスの提供ではなく、業務の遂行になっているとき。記録物の内容が薄れ、書くことが業務になっているなど
- ・業務量 2
- ・責任が重すぎる
- ・クレマーの対応を任されたとき
- ・精神的、身体的に限界を感じたとき。目標を見失ったとき。
- ・体調が悪く思うように仕事ができなかった時
- ・家庭との両立が困難だと感じた時
- ・職場の人間関係に悩んだ時。
- ・陰口を知った時
- ・仕事を無理やり押し付けられた時、責任感を感じない
- ・報酬、給与（低賃金、昇給しにくい、他の職業との差等） 6
- ・意見や提案をしても検討せず、同じ失敗を繰り返している時。
- ・虐待が酷い施設にいたとき。
- ・法人の考え方に不信感を持った時
- ・他の職種（教員）の仕事の採用の話が来た時
- ・上司に恵まれない時 3
- ・③（上司に注意・指導されたとき）に対して、できてない上司から指摘されたとき。

- ・自分が成長したいと思ったとき
- ・介護や福祉が、余りにも国や市行政その他一般の方からも理解されず、むしろ馬鹿にされていると感じた時。給料等に自分たちの仕事が反映されない時。福祉や介護に対する思いを持つ人が少なくなっていると感じる時。

- ・貧困ビジネスが無くならない、同一法人による利用者の囲い込み、未だに無資格者の人材が少ない等、介護業界全体の質の低さを実感したとき
- ・介護保険制度の限界を感じた時

(3) 介護の仕事を辞めたいと考えたことがないのはどのような理由からか

介護の仕事を辞めたいと考えたことが「ない」と回答した方を対象に、「介護の仕事を辞めたいと考えたことがない理由を教えてください」と複数回答で質問したところ、最も多かったのは「介護の仕事に対するやりがい・誇りを持っているから」43件（68.3%）であり、次いで「介護の仕事が好きだから」41件（65.1%）だった。また、その他として、以下の回答があった。



(その他の回答)

- ・生きている証だから
- ・色々な可能性がある、できる
- ・自分のキャリアに対して目標（ケアマネ→主任ケアマネ）があるから。
- ・介護を通してヒトの生命及び人生の一部に関わる貴重な業をしているから
- ・私は介護現場ではないですが、広い意味での介護に携わっていることに誇りを持っています

4. 介護の魅力発信について

(1) 介護の魅力とは何か

「あなたが考える介護の魅力とは何ですか、教えてください」と自由記述式で質問した。回答を、類似する内容で分類し、主な意見を以下に整理した。

○笑顔・感謝

- ・ほっこりを届けたい
- ・人の幸せのお手伝いになる事
- ・感謝
- ・相手の気持ちになって支援を行い、「ありがとう」の言葉に情熱がわきます。

- ・サービスを提供した方からの感謝の言葉、笑顔がやりがいに繋がること
- ・介護者や、その家族から感謝される事がある。
- ・人を笑顔にできる
- ・利用者の笑顔
- ・利用者や家族さんの笑顔が見れた時。
- ・介護には人を笑顔にする力があると思います。そこが一番の魅力です。

○人との関わり、つながり

- ・一期一会
- ・人との縁
- ・人と人との繋がり信頼関係
- ・人と人とのつながりによる学びや喜び
- ・人と関われる仕事だから
- ・人とのかわり難いが上手くいった時の達成感が良い
- ・人と人とのふれあい。必要とされていると感じる時間。
- ・人へのボランティア
- ・人を支え、支えられている。人間成長。人間にしかできない。
- ・人間の温かみを感じられる事
- ・相手がいること。たくさんしたこと（人生について）教えてもらえる
- ・お互いを必要とすることを感じられること

○人生・生活への関わり・支援であること

- ・人そのものと向き合う仕事であること
- ・そこにある命と向き合えること。
- ・どう生きるかをいっしょに考える仕事であること
- ・人生の最期に携わる事ができる
- ・人生の大事な場面での関わりをできる仕事。
- ・家族、利用者さんの人生の1部に関われる事の尊さを感じられる。
- ・人の生活に関わること
- ・日々の生活を支え、色々な人と会えること
- ・利用者の社会生活を支え、人生に寄り添う事が出来るから。
- ・利用者の生活が違和感なく普段通りに流れるお手伝いができる
- ・利用者の生活を支えること、介護過程の展開
- ・過去の話が聞ける
- ・全くの他人なのだが、人生の1ページに関わらせて頂ける。人生を学ぶ事が出来る最高の場所である。
- ・介護を通してヒトの生命や人生の一部に関わる業であり、生活の視点で本人だけでなく家族等含めた関係者全体的に関われる。
- ・利用者が、自分の思いや願いを実現出来る生活がおくれる
- ・ご利用者が自分らしく生活でき、満足できる生活をしているとき
- ・さまざまな人生の積み重ねをしてきた利用者、患者の生活に関わり、その方が人生を楽しむための支援ができること。
- ・本人の望む生活に身近に携わる事ができ、日々の日常の支援者で支えられる
- ・利用者の1番身近な存在として何気ない日常生活に関わり、利用者の意欲が向上したり、望む生活に近づけるように支援をチームで工夫し取り組むこと
- ・利用者の終盤の時間を一緒に過ごし、関わり方でその人の人生が幸せな時間になると思う。出来ない事を手助けしているつもりでも、その人から教えてもらうことは多く、お互いに感謝し合う事が出来る。
- ・利用者様と一緒に成長し合える事。
- ・利用者の生きがいを支えられること。それによる自分自身の心の成長。

- ・利用者の人生を支える事で、自身も学びがあり、やりがいや喜びを感じられる
- ・利用者の生活、人生のステージを介護職として一緒に関わり、家族や多職種とともに支えていくこと。

- ・その方が生きてきた人生の一部を手伝い、その人が素晴らしい生涯を見届けることができること。

○介護を通じた関わりによって、利用者の心身等に変化があること

- ・「寄り添う」ケアという常套句から「命を重ねる」ケアの実践が出来た時です。
- ・介護をとおして、命と心を守ることができること
- ・その人を理解し必要な介護ができた時
- ・試行錯誤を繰り返し、その人に合ったケアが上手くいく事
- ・その人のふつうを知り・考え、生活を支え・助け、その人に少しでも「よかった」と思ってもらえること
- ・自分が利用者さんに関わることで利用さんの生活援助の役に立っていると実感することを業務の中で感じるが多々あるから。
- ・介護を通じて人が成長すること
- ・利用者様自身で、できなかったことが、介助することで、できるようになった時。
- ・自立支援を促せる介護ができる。要支援者やそのご家族の頼れる存在になれる。
- ・関わる人（介護福祉士）によって相手の生活の質が変わる
- ・自分で考え行動した結果が相手の生活の質向上に繋がる
- ・人と近い距離で関わり、自分たちの持っている技術や知識で相手の生活を変えることができること
- ・入所者様や利用者様の生活環境がよくなったり、生活の課題を見つけ、前進ができたとき。
- ・利用者様の生活の質の向上、やりたいことの実現が自分の工夫や努力で実現できる事

- ・自身の言動で利用者様の笑顔や元気につながる事が出来る。心と暮らしに寄り添う専門職。
- ・自分の利用者に対する行動や思いがそのまま帰ってくる事
- ・身体介助を通して人をしあわせへと導く唯一の職種が介護だと思う。これは看護やセラピスト、医師にもできない事だと思う。
- ・相手の身体と心に添って動くことで、安心を共有するところ
- ・他人の人生に触れ、関わることでその人の人生の質を良くできること、そこから自身も学べる事
- ・入居者・家族・職員が楽しめるように支援しているとき。（自立支援などを行いながら。）
- ・利用者にとって自分が安心できる、任せられると感じてもらえると思ったとき
- ・利用者の出来る事は、見守り、出来ない事はチームで、支援し、自律していく姿は、刺激になり、利用者に感謝される事は、やり甲斐に繋がる。
- ・利用者の生活の質やADLが上がった時。出来なかったことが自分たちが関わることによってできるようになった時。いてくれて良かったと利用者に言われた時。
- ・在宅と変わりなく普通の生活を支えられる。その中でも感謝され、感動があり、利用者から最期が幸せだったと想ってもらえる事が私が思う魅力だと思います
- ・被介護者が生きていくことに希望を持ち、前向きになることに多少なりとも関わられた時

○介護の知識・技術等を通じて生み出される介護の特性や価値

- ・魅力的ではありませんが、誇りを持てる仕事です
- ・介護の仕事の重要性を感じ、行動できること
- ・人との交流の中で価値が生み出されること
- ・介護が必要となった人を幸せにするスペシャリストであり、時代の変化に大きく影響を受けながら、世界が注目している日本の職業の一つである。
- ・社会的な需要が大きく、将来の待遇面などの向上を望めること
- ・介護自体はAIでは出来ず、個人色が出る所
- ・模範解答がない。自分の想像力と工夫で新しい解答（介助方法・対応）を作ることができる。
- ・介護過程の展開
- ・個々の生活、人格を尊重したケアが行えること
- ・利用者の尊厳を大切に生活を支える唯一の専門職であること
- ・生活支援における対象者とのやりとりの楽しさ
- ・看取り介護に真摯に向かえること
- ・チームで利用者を支えることが出来る点
- ・他職種とは異なり、チームで24時間利用者の日常生活を支援及び改善出来る点。
- ・アセスメントや、観察をし、計画書を作成後、実施し、効果が見られたときに魅力を感じます。もちろんチームで取り組むため、情報の共有や、目標の共有を図り、そしてチームで実施。し、少しでも成果が見られたとき、効果が現れなかった場合時のチームでの見直し、検討を行う事や、時が魅力を感じます。

- 現在は一部のリーダーやケアマネ等の計画書をただ、ただ実施させられている感が強く魅力を感じることが出来ない。
- ・介護はどの職にもない『人間学』であると考えます。誰にでもできそうで出来ない唯一無二の職種。利用者は持っている能力を引き出せ残りの人生を生きるために、介護者は脇役ながら才能を活かし人間的成長ができる。相互関係を引き出せる。
 - ・介護の魅力は、人と関わる中で、図り切れない人の心、感情（笑う、喜ぶ、泣く、悲しむ、怒る、など）が動きます。一人ひとりの思いを察しその思いにそって考え対応すると、相手の心や感情が返ってきます。幸せの追求が、喜び、愛が溢れ、とてもやりがいを感じます。
 - ・前提として、お年寄りや認知症の方と関わるのが好きで、なぜかと考えると、こんな自分を受け入れてくれること。どんな状況でも100%がないところ。人の核心（様々な感情や生き様など）みたいところに直接関わっていると感じるころ。介護は化学であり、哲学であり、小説みたいで魅力満載です。
 - ・高齢者介護は、未だ人類が経験したことのない全世界的な課題（気候変動、自動車の自動運転、人工頭脳、宇宙・深海探索などと同様の最先端の課題）で、私達の現場の実践は、とても価値のあることだから。また、ヒポクラテス以来の医学、ナイチンゲール以来の看護学と比べ、介護福祉学は、歴史も非常に浅く、また学問的にも体系化されていない。だからこそ、将来介護福祉学を学ぶ者たちへ、教科書を書きたいと思う。

○自分の成長や自己肯定感につながる事

- ・この上ない天職。やり甲斐と生き甲斐。
- ・専門職としての自己肯定感が築けること
- ・対人援助がうまくいき、やりがいを感じた時
- ・人を知ることで自分を知ることができる

- ・自分自身の人間性が磨かれる
- ・人としての尊厳を考え、整えられることで自分が成長出来ること

- ・人として、自分自身の成長につながると感じるとき。
- ・自分自身の成長。望む生活を継続していくために様々な関わりを持っていくことが出来る
- ・人生の歩みを、仕事を通して経験でき、老い方や他者との関係性等、自らの人生の糧にできること
- ・人の喜びが自分の喜びになる
- ・必要とされている いろいろな経験ができる
- ・自分が役に立っていると実感できること。人と濃密な時間を過ごすことができる仕事であること。
- ・人の為になっていると感じることができる（人として大切なことを護ることに携わっていること）
- ・他者の幸せを支えることに貢献していると感じられること。→これによって自分自身（介護する側）の精神的な健康づくり、心の安定感の向上につながる気がする。
- ・利用者さんの笑顔、ありがとうという言葉などを聞くとやっぱり嬉しいです。施設という小さな世界で心からほっこりできるような出来事にたくさん触れ合えるのが魅力だと思っています。
- ・利用者さんという1人の人間にどこまでも深く深く関わっていく事や、チームケア、多職種連携等を通して己自身の人間的成長に繋がっていく事。
- ・介護は人生のテキスト。関わっているすべての人が先生。利用者様の生き様に教えられ、今現在の行動に教えられる。その行動が、いわゆる暴力や暴言と言われるものであっても、その意味に教えられる。日々の良かった事、悲しかった事、嬉しかった事、成功、失敗、全てが成長につながる。個人的には、現場でハッピーオーラ満開の空気に包まれた時は最高。それが介護の魅力。
- ・一言では言えない。様々なシーンがある。記憶にある全ての経験が現在の仕事をする上で困ったとき、迷ったときに引き出しとして開く。長く経験することでかけがえのない沢山の引き出しを手に入れている感覚は魅力といえれば魅力。

○サポートする立場から感じる魅力

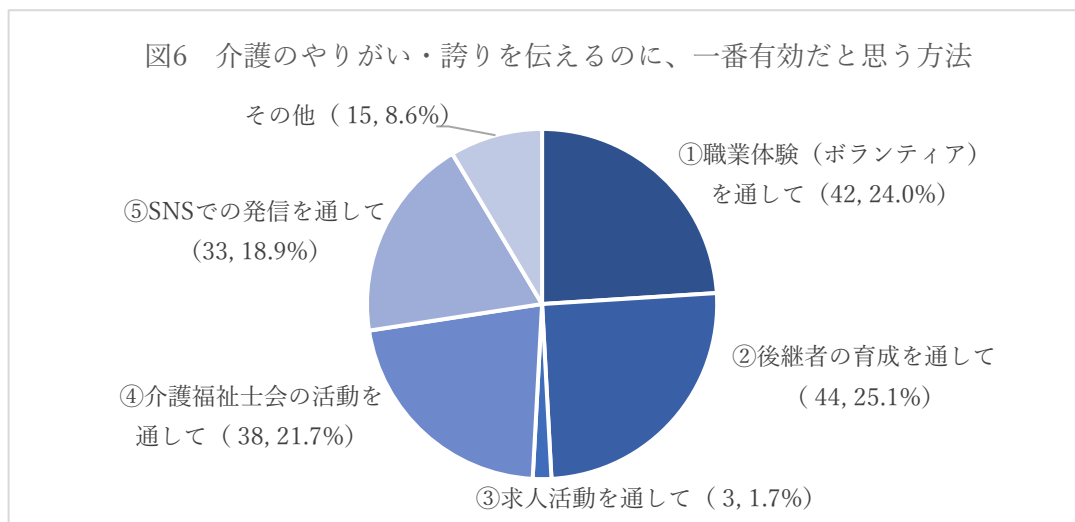
- ・育成と可能性
- ・利用者さんが安心して通える施設づくりや、スタッフが働きやすい職場環境の整備に貢献できます

○その他

- ・楽しさ
- ・共感する友がいる
- ・私達は、人であると感じられること
- ・人との繋がりが、自分にとっても大きな気付きになり、心豊かなハリのある日常生活として送れる
- ・人にしかない、感情などと向き合い互いの成長を感じ、生きがいを見いだせるから。
- ・人に喜ばれる仕事。自分の知識、経験を役立てることができること。
- ・生きることの尊さを意識して生きていくことができる
- ・毎日、違う何かがあり刺激がある。
- ・自分自身が要介護者になった時に利用したい事業所や施設を目指せること
- ・食いつぶれぬ

(2) 介護のやりがい・誇りを伝えるのに有効だと思う方法

「あなたが次の時代を担う若者に、介護のやりがい・誇りを伝えるとしたら、一番有効だと思う方法を一つ選んでください」と質問したところ、「後継者の育成を通して」が44件（25.1%）で最も多かった。また、その他として、以下の回答があった。



（その他の回答）

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・教育の中に介護の時間を作る。 ・授業 ホームルーム活動 ・義務教育や未就学の子も達への介護体験 ・介護職を含む全ての仕事・働く事とは、について、小中学生の児童・学生さんたちから伝えていく事がとても必要である。 ・何らかの体験を通しての実感が必要なのは確か ・きちんと介護を知ってもらう、魅力を発信する為の、イベントなどを開催する ・SNSでの情報発信や各種体験等の経験など、状況に応じた対応が必要 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士それぞれが生活の中で社会に対して介護とは何かを発信していくこと。 ・または人生の挫折を体験した時に目にとまるように ・認定介護福祉士まで等のキャリアパスを伝えて、将来のイメージを描かせてあげ、未来への不安を軽減させる。 ・研究活動を通してエビデンスのある実績を積み上げること ・給与の充実化 ・その人がやる気を出さないと教えても結果は同じ。 |
|---|---|

(3) 介護の魅力発信について、日本介護福祉士会に望む・期待する活動することは何か

「介護の魅力発信について、日本介護福祉士会に望む・期待する活動はどういうものですか、教えてください」と自由記述式で質問した。回答を、類似する内容で分類し、主な意見を以下に整理した。

○発信の媒体や機会の多様化と手法等について

- ・積極的な魅力の発信
- ・人生でほとんどの人が避けては通れないことなので、ポジティブな発信をしてほしいと思います。
- ・カッコいい、おしゃれな宣伝
- ・Fブックへの発信 ホームページの充実

- ・ YouTube にも魅力発信
- ・ SNS などを通してもっと広く介護の魅力、介護福祉士会の活動を発信できたら良いのではないのでしょうか。
- ・ SNS を活用して、現在行っていることを発信する必要がある。ホームページだけでは、伝わっていない。知っている人だけが見ている。SNS ならば、いろんな方がいると思うので、定期的に発信していき、伝えていく必要があると思う。
- ・ 今の時代に合った方法での魅力の発信と、福祉に携わる人間の社会的地位向上のための社会への発信
- ・ やはり、時代に合った SNS 活用は必須で有ると考える。専門家のインフルエンサーの指導・教授を受け早めに発信していかねば、今後の介護職人員確保は加速度的に厳しくなっていくと考える。
- ・ 一般市民へ介護の情報が流れやすいように TikTok やインスタグラム、YouTube 等で情報の発信をしていただくと介護業界への親しみも増すのではないかと考えます。
- ・ ずいぶん昔ですが「介護男子」という本が出た時に福祉を希望する男子生徒が一時的に増加しました。今の生徒は本でなくインスタなどの SNS が中心に情報を受け取っていると感じます。そのような SNS で魅力の発信ができると良いかと感じます（堅苦しい公式 HP などになると観覧傾向は少ないと思います。更新頻度が重要になると感じます）
- ・ メディアへの働きかけ
- ・ ドラマ化してもらおう
- ・ たとえば、テレビ CM など、多くの人が目にする媒体で、介護福祉士について、介護福祉士会の活動について、ひろく伝えてほしい。
- ・ 広報活動や、各種イベントへの参加の機会を増やす。
- ・ せっかく、介護の日があるので改めて PR につなげてほしい。
- ・ 魅力発信できるようなイベントなどをたくさんしてほしいです。
- ・ 一般の人にも届くような、身近な介護研修やイベント
- ・ 質の担保もわかりますが、難しい研修等を増やすだけでなく、一般の人が介護に興味を持ち、資格取得への意欲が出るような取り組みを増やしてほしい。
- ・ 研修会や交流会を多くし会員以外の方でも来やすいような会にさせていただき色んなことを学べるような会にしてほしい。

○発信・取組等に関する具体的なテーマ・内容について

- ・ 仲間作り
- ・ 介護者同士の集いの場が、地域で開催され、情報の交換等あれば、新しい発見や、知識が学べると思います。
- ・ 夢や希望を持てるような活動を期待しています。
- ・ 日本の介護が世界の介護と関わる活動を期待する。
- ・ 災害地域への活動
- ・ 研究活動の実績
- ・ バーンアウトの理由と対策

- ・要介護者を疑似体験し、高齢者や障害者の不自由さや気持ちの理解を促すワークショップ、介護をサポート出来るような福祉用具の体験と販売。それらを通じて支える側のやりがいや介護職の誇りを感じてもらう。
- ・高品質、高水準、高収入な No.1 施設を作る
- ・魅力は理解していても、現実とのギャップに悩み挫折してしまう方が多くいるのではないかと思います。魅力発信の考え方として映画ケアニンなどは、介護職も介護をあまり知らない方にも伝わりやすいのではないかと思います。
- ・①子供達や若い人を巻き込んだ研修会やイベントの開催。それを多くの人目に触れるよう拡散し、介護の魅力の発信を行なっていく。(現在の理事役員の個人での SNS 投稿しかなく、起爆剤に欠ける) ②KAIGO PRiDE のように世の中の人に介護の素晴らしさ、必要性を知ってもらう。
- ・介護技能五輪を始めてください。若手の技能を伸ばすと同時にやりがいや賞賛を受ける機会が欲しいです。
- ・『輝き人』のようなテーマで全国で頑張っている介護職員をレポートして発信したり、各都道府県ごとで頑張っている介護福祉士会が活発になるようにアプローチして欲しい。
- ・「介護のしごと魅力発信等事業（介護技能向上促進事業）」(厚生労働省 令和3年度)の一つとして行われた「介護の生理学会」は、非常に素晴らしかったです。東大の秋下雅弘氏やマウントサイナイ病院の山田悠史医者に「老年医学」、或いは、「身体拘束ゼロへの手引き」に関わった田中義行氏に「ポジショニング」の講師をお願いしたりして欲しいです。
未だ介護保険のサービスを受けるに至ってない、高齢者・認知症の方、或いは、それらの方の家族介護者に、積極的にアウトリーチする活動を展開して、多職種や社会から、専門家として認められるようになって欲しいです。

○介護の魅力発信する人について

- ・発信者
- ・もっとメディアに出る機会の創出とメディアウケする人を全面に出す。
- ・魅力を伝える必要性をもっと現場の方々に知ってほしい。
- ・介護の魅力発信は、一人ひとりの介護福祉士が発信していかなければいけないと思います。一人ひとりの介護福祉士が次世代に向けて発信していくこと、介護の魅力をつなげていくこと。それには、大きい場所から、一人ひとりに呼びかける。介護福祉士が他人事ではなく関心を持ち介護の仕事を大切に思うからこそその行動をとってほしい。
- ・魅力発信できる場は沢山あると思うので、発信できる人を増えると良いなと思っています。発信したい人に場を提供する、発信したい人を増やす、環境や仕掛けづくり、活動バックアップする体制づくりを期待します。

○誰に向けて発信・取組を行うか

- ・子どもから大人まで、老若男女に対して発信してほしい
- ・中・高生の保護者や教員に対するイメージアップ、親の介護が必要になる 50 代以上に対する啓蒙活動。

- ・介護という仕事は大切であるが、自分の子供にはついてほしくない仕事であるとする親に対してどの様にアプローチしていくのか？
- ・政治家に介護職とは何か？何をするとところなのか？何がしんどい、大変なのか？を1ヶ月実際に体感していただける状況にしていきたい。

(若い世代・次世代に向けて)

- ・若い世代に解りやすく参加しやすい環境作り
- ・若者が仕事に就いてもいいかも？と思ってくれるきっかけ作り
- ・若い世代の方が、介護に魅力を感じられる PR や職場体験活動等積極的に行って下さりたいです。
- ・若い人たちに介護の魅力を伝えて、担い手を育成していく。そのためには処遇や社会的地位をあげる必要がある。

(新たな担い手に向けて)

- ・人員確保について、多方面に渡ってのかかわりが増えてより身近に介護が感じられる様な活動をお願いします
- ・介護の魅力を後生に伝えることで担い手が増えてもらいたいです。

○介護や介護福祉士の認知向上につながるような発信・取組

- ・知名度
- ・まず、人と関わる・接することが面白いと思ってもらえるといいと思うが・・・具体的には思い浮かびません。すみません。
- ・もっと介護が身近に感じられる様な取り組みを望む
- ・介護福祉士が、より専門的でありながら身近な存在となれるようになる活動。抽象的ですみません。
- ・まずは介護の仕事を身近に感じていただきたい。ご利用者様も参加できるイベントなどを通して、認知症、介護への理解を深めることができるような活動ができたらと思う。
- ・一般の方にも介護職の魅力をわかりやすく伝える取組。介護職をカッコよくこなすように PR

○介護に対する適切なイメージの発信・取組

- ・介護が辛い、大変な仕事というイメージを払拭する活動
- ・イメージアップと、実際の介護現場で働く方への寄り添い
- ・パンフレットが介護の理想を妄想化させていると感じる。いい場面をアピールするのは大切だと思うが、正直、介護はシビアな面が多いこと知って貰う活動も大切。
- ・介護の魅力だけでなく、つらいことやしんどいことも知った上で、それでも介護の仕事がやりたいと思う人が来てくれるような活動を期待します。
- ・親が子供に「将来の仕事に介護」という選択肢を提示できる介護のイメージ作り（給料、社会的信頼、やりがい等）。夫が教員をしていますが、生徒が進路で介護を考えても親が「同窓会で友達と会う時に、賃金差や生活レベルで差が出る事になるけどそれを理解しておいたほうがいいぞ」と言われたから看護師や療法士に進む、という生徒もいる。生徒の一生に関わる時に、各仕事の将来性も含めて公平に情報提供をすると同じ福祉でも医療や療法士、社福などに行っ

てしまうそうです。魅力ややりがいと同時に対人や身体への負担に見合った賃金等、様々な改善点があるかと思います。(と、同時に給料に見合う専門性を介護職が身につけることも必要かと思っています)

○介護や介護の仕事がどのようなものかについての発信・取組

- ・職業とすることの意義
- ・職能団体として、介護福祉士に対する理解が深まる活動展開
- ・人間力、技術力を持って、求められる最前線で喜び、苦しみを抱えながら活動する事。
- ・介護福祉士の仕事の魅力をもっと発信してほしい。
- ・介護福祉士の仕事は多岐にわたるのでそれを紹介するような活動。介護福祉士会の偉い人でなく現場の介護福祉士と高校生や中学生が自由に話せる場所を作る
- ・他者に伝える力が不足しがちな介護職員が多いこともあり、現場の声を発信していけるような活動を希望する
- ・表面的なパフォーマンスに偏りすぎず、実践者の声を発信して欲しい。
- ・利用者を通しての仕事のやりがい
- ・現場の良さのアピール
- ・日々の活動の発信
- ・日々のあたたかい介護、介護にまつわるエピソード、それぞれの介護観、などなどを発信してほしい。日介も県会も、やりたい事、やらなければならない事が多すぎる。その反面、日々の業務の中では実際困難。だったら、現場で生き生きと働いている人達に、自ら発信してもらえような企画があったら良いかもしれませんね。
- ・ストレスや多忙等の課題が克服できれば、介護は本来、心が満たされる仕事。介護に携わることで心の健康にもつながる可能性がある。ならばきっと体にも良いはず。もしかしたら健康寿命の延伸にも効果があるかもしれない。また、他者の病苦に寄り添い、他者を助けながら生きていくことができ、こうした経験から人間らしさを育める仕事でもある。←説明されていることではなく、あくまでも私見ですが、介護はこういう魅力を秘めていると思っています。こういう視点での情報を収集・蓄積していけたらと思います。
- ・単なる作業ではない姿をより明確に伝えること
- ・介護という仕事は誰でもできるものではない、高度な職業ということを世間に知らしめてほしい
- ・質の高い介護サービスの提供のできる介護福祉士の重要性を国民に知ってもらう活動も必要だと思います。
- ・大変とか給料が低いとかの暗い話題よりも知れば知るほど興味がわく仕事であることを発信して欲しい。
- ・現場で働いている時は悩みを抱える時もある。役職に就いたら自分が先頭にいなければならない。そんな時にブレない介護福祉士の姿を発信して欲しい
- ・年数別に発信。初任者→利用者との関わり。例 ありがとうと言われた。レクや行事一企画、参加して楽しかった等。中堅→介護中心の他職種連携が上手くいっている事例の紹介。人材育成の事例等 ベテラン→次世代へのバトン渡し方。世代交代の上手なやり方等。ここには、書け

ないくらいたくさんの事をやって欲しい。そのくらい会には期待している。

(モデルとなるような取組)

- ・モデルケースのメディア発信
- ・後継者を育成する活動に成功している施設・事業所の発信をして欲しい
- ・民間の施設の取り組みなどを意識的に多く取り上げて欲しい

○後進育成の取組やスキルアップ・キャリアアップの道筋について

- ・就業の門戸は広く、努力次第でステップアップできることを示してほしい。
- ・後進の育成、次世代が育ち活躍できる
- ・研修の充実
- ・スキルアップ・フォロー研修等開催等行うことで資格を取って終わりではなく、スキルアップを図りながら支援できる体制。
- ・専門高度化した現在の介護現場に則したキャリアアップラダー、人材育成方法の提示

○学生や教育機関への働きかけ

- ・小中学校での訪問や授業をさせていただくこと
- ・介護福祉士会による学校訪問の継続。給与アップに向けた取り組みの継続。
- ・各自治体に小学校中学校高校の授業や課外活動の中でのパイプラインができるといい。
- ・学校や地域での教育の場での、介護に関する啓発活動

○国や行政等への働きかけ

- ・行政機関、教育機関との連携
- ・国に介護の魅力をもっと発信して処遇のさらなる改善をしてほしい。
- ・政府・マスコミへの働きかけ（やりがいのある仕事だという報道を多くしてほしい） 日本介護福祉士の生涯研修を受講すれば、加算がつく報酬体系への見直し。 情報公表においても日本介護福祉士の主催の研修修了者を終えた者が配置されているかを項目に入れてほしい。
（アセッサー制度を厚労省の天下り機関が行っている現状では難しいかもしれないが、個人的にはアセッサーよりも生涯研修の方が学ぶ質は高いと思う）
- ・社会に対して積極的に発信していくことと国に対して介護福祉士会として審議会や議員に対して発言していくこと。
- ・団体として国を動かせる発言力を期待したい
- ・定量的で持続的な国に対するアプローチと提言
- ・国や各委員会で、もっと介護の大切さ、重要性、職業としての可能性や魅力を発信する
- ・国ともっと積極的に関わって行って欲しい、活動していることをもっと外部に発信をして行って欲しい

○介護福祉士の専門性や処遇の在り方

- ・介護福祉士受験資格の緩和 資格取得後の更新もしくはフォローアップ研修体制の構築
- ・資格更新

- ・政府や役所へ「介護福祉士」と介護職の実施できでる業務の差別化を働きかける。
- ・介護福祉士の役割の明確化・専門性の充実
- ・介護福祉士としての専門性の確立
- ・専門性の向上と介護福祉士としての地位確立へのアプローチ
- ・国家資格としての社会的地位の確立。 介護の仕事の適正化
- ・介護福祉士の社会的地位の向上
- ・給与水準の向上
- ・仕事に見合った給与や休日、教育体制の充実を期待しています。
- ・制度における評価
- ・他団体と協働して、介護報酬の引き上げ・賃上げへのロビー活動
- ・介護は汚い、きつい、低賃金と世間では思っている。看護師が憧れの職業にあがるように、介護も魅力を学生に知ってもらう活動を期待する。また、低賃金では魅力があっても人財は増えない。賃金アップの働きかけを期待する。
- ・職業にかかわる人の、間口が狭まったとしても、知識と技術が無いとできない専門職種、という地位を確立できるようなアピールと行動を、もっと見えるようにしてほしい。介護という仕事が、誰もしたくないような大変で、給料も安い仕事というイメージを変えていってほしい。外国人雇用や、ロボットより、することはほかにあるのではないですか？制度そのものについても、職員へ還元する介護報酬がないのに、どうやって給料が上がりますか？
介護福祉士会の知名度が低く介護福祉士に浸透していないと感じます。もっと情報発信が必要ではないかと思います。
- ・全国での取り組みを、より発信する。会員の獲得も必要だが、介護が学問としてのエビデンスを積み重ねるためのサポート体制を整えてほしい。ただ、資格をとって終わりではなく、いっそのこと更新研修や、介護福祉士の付帯資格としてのケアマネなど、介護福祉士の幅を広げるための取り組みを進めていただきたいと感じています。病院勤務の介護福祉士に加算をー
- ・労働条件、賃金の改善。SNSでも「つらい職業 Best5」などによく挙げられる。低賃金、腰痛、変則勤務による体調不良など。正直、身内には勧めない。3・魅力だけでは生活できません。今の政府に対して仕事に見合った評価(=報酬)を行わなければ、人は福祉を職としません。報酬も含めて魅力ある職として発信していただきたいと思っています。
- ・介護職員の視野を広げること。他分野との交流と雇用環境を構築すること。

○日本介護福祉士会の活動全般について

- ・もっと大々的に活動してほしい
- ・今以上に会が発展するには専門のコンサルタントを雇用するなど第三者が関わっていくことが必要。
- ・団体組織の中枢を外れると、団体の事、活動の事等がほぼ耳に入っていないのが実情。魅力発信以前の問題として、活動発信及び情報発信が必須かと。認定介護福祉士や専門介護福祉士の確立と制度化と資格化。認知症高齢者から障害高齢者への移行に伴う学びの場の提供。マスメディアや広告企業等とのコラボレーション等宣伝活動も同時に展開できればと思う。
- ・会員数の拡大と専門職としての地位の確立

- ・研修の必要性をもっと介護福祉士に伝えること
- ・会員数を増やす研修の充実
- ・47 都道府県介護福祉士会に所属する会員が等しく教育の機会が得られるよう、早急に生涯研修体系を構築していただきたい。
- ・介護福祉士会に入会して、何かしらの優遇措置があれば…
- ・介護福祉士でも会員にならない人が多い。理由は何の利点もないから。福利があるわけでもなく、会合に参加の意味を見つけられない。会費だけ高いイメージしかない。
- ・会員が増えたり、一人一人が活動に満足できるような会になってほしい
- ・業務が忙しく色々な活動に参加できないといった声がかかります。時間、金額など介護職の方の参加しやすさを考慮して頂けたらと思います
- ・会の活動ややりがいなどをもっと広く周知したり、今の研修は若手に対しての（認定なども含む）研修は多く行っていますが、高齢者介護福祉士の研修ももっと充実してほしい。高齢者同士でなければわからない考えもあると思うから。
- ・活動内容が会員以外の人に伝わりにくいと感じています。もっと、世間全般にアピールできたら良いのかなと思いました。
- ・介護に対する自信を持てるような環境整備やこの仕事の魅力を広く発信する機会の確保を行う。
- ・介護の仕事を誇りをもっていつまでも働けるように、社会（行政や一般の方）に働きかける活動を行ってほしい。またそのためにも行政などへの影響力を持って欲しい。
- ・一般企業と異なり、学生のインターシップがない。法人が介護福祉士会に入会するメリットとして各都道府県の介護福祉士会と大学、高校が連携して3年生や高校2、3年などでインターシップを行えると良い。
- ・各都道府県へのサポート体制
- ・都道府県を結ぶ繋がりのある活動
- ・全国の介護福祉士会が一丸となって取り組めることがあるとおもしろいのではないのでしょうか。
- ・今以上に社会に会の存在をアピールすること。会員確保。
- ・職能団体として介護に関わる人を護る立場になって欲しいと感じている。労働組合の様な役割と制度の適正化など現在の介護現場や資格取得制度の矛盾などがなくなる様な活動を期待しています。
- ・日本介護福祉士会の広報 PR 活動をさらに強化して多くの介護福祉士に入会してもらうことで、介護福祉士会が職能団体としてさらなる発展をとげることで、多方面に職能団体として介護の魅力を PR する裏付けを強化できると考えております。専門職として介護という仕事にプライドを持ち日々の仕事に励んでいる介護福祉士の結集あってこそ、より強力な介護の魅力発信ができると考えております
- ・誰に対して魅力を発信したいのか具体的な主語がないから書けない。オンラインの普及が当たり前になった今、組織体制そのものを見直す必要があると思う。
- ・今の日介には期待もなければ、望みもない。